

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 3 月 9 日 (2006.3.9)

【公表番号】特表 2002-536070(P2002-536070A)

【公表日】平成 14 年 10 月 29 日 (2002.10.29)

【出願番号】特願 2000-596978(P2000-596978)

【国際特許分類】

A 6 1 L 2/18 (2006.01)

A 6 1 B 1/12 (2006.01)

A 6 1 B 19/00 (2006.01)

A 6 1 L 2/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 2/18

A 6 1 B 1/12

A 6 1 B 19/00 5 1 3

A 6 1 L 2/02 A

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 18 年 1 月 17 日 (2006.1.17)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 処理室の内部を洗浄し殺菌する装置であって、該処理室のための殺菌液体の供給源と、該殺菌液体の内部に圧力、振幅および周波数の変動と該変動の勾配とを生じさせる手段とを有し、該手段は前記殺菌液体内にキャビテーションを発生させるようになっている、処理室の内部を洗浄し殺菌する装置において、

前記圧力の変動を生じさせる手段は、前記処理室と該処理室を周期的に負圧に接続することのできる切換部材との間の主導管に流入している液柱を具備しており、前記負圧の値は前記振幅または大気圧に関連する値であることを特徴とする、処理室の内部を洗浄し殺菌する装置。

【請求項 2】 前記装置は、前記切換部材を前記処理室に接続する主導管と、該主導管を前記大気圧と前記負圧とにそれぞれ接続する二つの導管とを具備し、前記切換部材は前記導管と前記主導管との間を接続する連結通路を有しており、前記切換部材は前記連結通路のうちの一方の連結通路が前記主導管を大気圧に連通させる第一の位置と前記連結通路のうちの他方の連結通路が前記主導管を前記負圧に連通させる第二の位置との間で移動でき、さらに、前記装置は、前記切換部材を前記第一の位置から前記第二の位置へおよび前記第二の位置から前記第一の位置へ移動させる駆動手段を具備していることを特徴とする、請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】 前記切換部材が回転部材でありまた駆動モータの出力シャフトと一体に運動するようになっていることを特徴とする請求項 2 に記載の装置。

【請求項 4】 前記処理室を一方において前記切換部材に他方において殺菌液体の前記供給源に接続するようにした末端片を具備していることを特徴とする請求項 1 から 3 のうちの 1 項に記載の装置。

【請求項 5】 前記末端片に液密状にかつ取外し自在に接続された第 2 の可撓連結要素が前記切換部材と前記処理室との間に配設されていることを特徴とする請求項 4 に記載の装置。

【請求項 6】 前記処理室が取外し自在かつ液密状に相互に接合された 2 つの部分で形成されていることを特徴とする請求項 1 から 5 のうちの 1 項に記載の装置。

【請求項 7】 前記室が、内視鏡の作動部分を受入れるよう一端が開放された管状要素で形成され、前記室の内部が一方において前記切換え部材に接合片を介して接続され他方において殺菌液体の前記供給源に前記内視鏡の生検鉗子のための入口通路を介して接続されていることを特徴とする請求項 1 から 4 のうちの 1 項に記載の装置。

【請求項 8】 前記管状室がその両端が開放されている管状要素を含み、前記両端の各々がシール接合部を介在して 2 つの閉鎖部材の環状溝に係合されていることを特徴とする請求項 7 に記載の装置。